

KDKニュース



KDK三つの原則

1. 開拓伝道であること
2. 教会を建てあげること
3. 聖書信仰に立つ、教団、教派との協力

国内開拓伝道会

発行人 泉田 昭
〒352-0011
埼玉県新座市野火止4の8の28
電話 048-202-1500
FAX 048-202-1501
振替 00140-6-57493
No.117 2017年1月

「まず『ひとり』を大切に」

KDK委員 村上 宣道



世界の企業に多大な影響を及ぼしたとされるピータードラッカーによれば「企業の目的は顧客の創造にある」とのこと。企業と教会とは根本的に異なることは言うまでもないが、謙虚に学ぶべき点は多々あるように思われる。

有名なドラッカーによる五つの質問に「あなたの顧客はだれか」

「その顧客は何を価値と考えるか」というのがあり、その正確な認識と対応が最も重要であるとしている。この問いは、教会そして伝道の面にも投げかけられているはずで、それに対して、われわれはどう対応しているであろうかと考えさせられる。

目的としての顧客の創造であるが、原文では“create a customer”となっており、顧客を複数の“customers”と捉えずに、“a customer”と単数にしているところにその意図がうかがえる。いわばその他大勢的なマーケットとしてではなく、「ひとりの人」に焦点をあてるということなのではあるまいか。主イエスの伝道法はまさにそれであった。もちろん多くの群衆に向かって話された場面あるわけだが、

特にヨハネの福音書などでは、ニコデモ、サマリヤの女性をはじめとして、個人的な接触の連続である。その意図の例をパンの奇跡における「ひとつもむだに捨てないように」と命ぜられたことばに見る。いくらでもパンを増やすことはおできになるお方が、あえてそう言われたのはなぜなのか。

ここで使われているアポリュミは六・三九で「ひとりも失うことなく」と訳され、あの有名な三・一六で「ひとりとして滅びることなく」と訳されているのもこのアポリュミである。つまり愛の目的、そしてその対象は、かけがいのない「ひとり」なのだというメッセージの発信がここに見られるのではあるまいか。

「ひとりの滅びることを望まれない」のが主の心と知るものとしてはひとりでも多くの人が救われることを願うのは当然ながら、しかし主イエスによれば、たった一匹の迷える羊、失われたたった一つの銀貨が見出されただけで、天においては「喜びがわきおこる」のだとのこと。

改めて思う。夢見る大きな教会の形成も、大勢の人が救われるリバイバルも、すべてはひとりからしか始まらないことをおぼえつつ、今日もこつこつ、与えられているひとりを大切にしていきたい。

(坂戸キリスト教会 協力牧師)